

フィリピン遠征

15才以下男子 堀切 啓貴 (テン・IFT)

今回、フィリピン遠征に選出していただきありがとうございます。

僕は、この遠征でフィリピンの人たちとの交流はもちろんなのですが、精神力を向上させることを意識してのぞみました。

今年の初打ちはフィリピンのシェルコートで、朝から3時間。年末年始でゆっくりしていた僕にはフィリピンのジュニアにはついていけず、やっぱり体力づくりが大切なんだなあということを改めて教えられました。

午後からは、オンコートで練習試合を行いました。フィリピンのナショナルコーチにもコーチングをしてもらい相手を分析してテニスをする。今僕にない、考えてテニスをするということを身につけてもらいました。

コート場ではボールボーイがいて、話を聞くとコートの周りに散らばったボールを回収し、プレーヤーのもとへ返す仕事をしていてお金をもらっているそうです。コートのラインは毎試合ボールボーイが白線をひいているのでラインが曲がっていて、最初は「えっ??」と思いました。これから海外のITF大会などに出場していくとこのような不規則なコートはたくさんあるみたいなので、日本の正しいコートに慣れすぎたら国際トーナメントなどで結果が出せないと思います。ですので、環境がどうであれベストをつくせるように意識して練習しないとイケないんだなあ、と思いました。

フィリピンのジュニアは粘っこくしつこいテニスをする選手が多く、いつもより1試合長い時間行わないといけなく、集中力を最大限まであげて試合をしないといけない状態になり、考えて打つということが難しいことがよくありました。しかし試合を重ねていくうちに体力もつき、集中力のアップ、そしてこのような長い試合をしても諦めず1つ1つの試合を大切にすることができたので目標にあげていた精神力の向上もできたのではないかなと思います。

ですが、このような状態を続けていかないとせっかくの収穫も水の泡となってしまいます。スクールに戻ってもしっかりとやっていかないと自分のためにもならないので諦めずにやっていこうと思います。

遠征中、体調をこわすことがあり関係者の皆様には多大な迷惑をおかけしました。本当に申し訳ありませんでした。他の方に迷惑をかけたことはしっかり反省して2度と迷惑をかけないようにやっていこうとおもいます。

今回いろいろな方々とお会いし、またお世話になりました。この恩を返すには、自分がもっと成長しテニスプレーヤーとして結果をだすことだとおもいます。この先日々前進してみなさんがもっと応援していただけるような選手になりたいと思います。

本当にすべての面でレベルアップできました。この遠征にたずさわった方々、またその他僕たちを応援していただいた方々、本当にありがとうございました。

